

◆「フランス文化センター 日本」 INSTITUT FRANÇAISが発足 5月10日 仏大使公邸で盛大なお披露目

フランス政府の文化政策の一環として、これまで東京、横浜、京都、福岡にあった日仏学院・学館がこのほどフランス大使館文化部に統合され、新たに「フランス文化センター日本」として発足しました。名古屋など5都市にあるアリアンス・フランセーズや東京の日仏会館などは今後も日常的に連携して協働する方針です。

その誕生を祝うレセプションが5月10日、東京南麻布の仏大使公邸で開催され、本会から井土副会長が列席しました。会場は多くの招待客で立錫の余地もない盛況で、ゲストの寺島しのぶさん、別所哲也さんらのほか、森英恵さんら著名人の顔もみられ、夜遅くまで音楽や花火などで盛り上がっていました。冒頭、クリスチアン・マセ大使は「日仏は古くから互いの文化を称え合ってきた。いま「センター」の発足により、刺激に富む交流の歴史に新たな勢いを与えたい」とあいさつしました。



4/15 第12回文芸講演会に多数来聴

柏木隆雄先生 黒澤映画とバルザックめぐり印象深いお話

12回目を迎えた柏木隆雄文芸講演会は、前年度に引き続き放送大学三重学習センターと共催で、三重県文の生涯学習センターで開催され、会場は60名を超える参加者で埋め尽くされました。今春から大手前大学学長に就任された先生のお話は「映画と文学―黒澤明とバルザック」。黒澤が少年時代愛読した立川文庫、青春時代に読み耽った内外の文学、その豊かな読書体験から話を起こされ、音楽、演劇、能への傾倒へと話が及びました。「姿三四郎」「七人の侍」「酔いどれ天使」「赤ひげ」「まあだだよ」など代表作のカットシーンを挿入しながら、クロサワ映画の成立が解明されてゆきました。バルザックと黒澤の関連について、先生は以下の二点に注目されました。一つは「人物再登場法」という技術的なアナロジー、もう一つはバルザックの「ゴリオ爺さん」、黒澤の「赤ひげ」などで共通する「青年と老人の出会い」の物語。黒澤はバルザックに傾倒していたのでは……と思わせる先生の深い読み解き。映像と、語りに魅了され、二時間があっという間に過ぎていました。

(詳細はHPをご覧ください) 矢野

後援事業

7/16(祝・月) サロンの調べ・高原の楽興

ピアノ独奏 針谷宏弥 (MUSAION演奏企画 主催)

日時 7月16日(祝・海の日) 開演 15:00

会場 Shoko-Hall (津市白山町伊勢見150-195 MUSEUM OF TANNOY 内)

前売 3,000円 当日 3,500円

(演奏曲目) ショパン:夜想曲第9番、即興曲第2番 ほか、フォーレ、ドビュッシー、宮下和夫の作品から

お問い合わせ TEL: 059-227-0454(針谷) E-mail: musaion@goo.jp

9/29(土) 荒木まどか ハープ・リサイタル

日時 9月29日(土) 開演 14:00

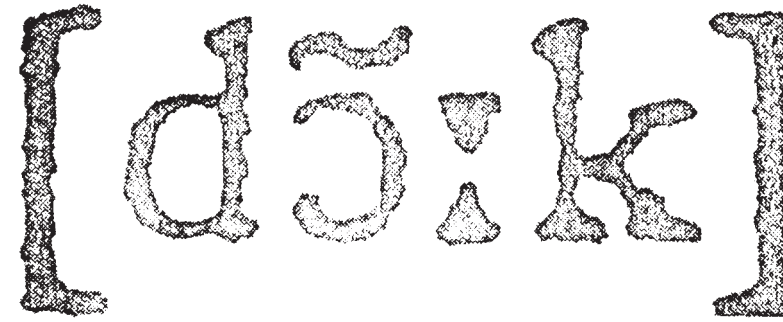
会場 津リージョンプラザお城ホール

前売 1,500円

(演奏曲目) バッハ: パルティータ1番

ドビュッシー: フルート・ヴィオラ・ハープのためのソナタ ほか
(ゲスト奏者 増本龍士 f l. 富田大輔 v a)

お問い合わせ TEL: 059-225-8962(荒木) E-mail: madoki@hotmail.com



DONC どんく

N°94 juin 2012 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL 059-226-2766

FAX

7/21(土) 創立25周年総会と記念イベント

ジャンヴィエ総領事を囲んで

Autour du Consul Général, M. JANVIER

三重日仏協会創立25周年にあたる2012年度総会と記念イベント、および「パリ祭」レセプションをきたる7月21日(土曜日)津市のプラザ洞津で開催いたします。今回は京都からフィリップ・ジャンヴィエ・カミヤマ総領事ご夫妻をゲストにお迎えして親しく懇談する機会を得ることができました。総会議事以外は一般公開といたしますので、お誘い合わせて多数ご参加ください。

日時: 7月21日(土曜日) 午後3時30分より

会場: プラザ洞津 (近鉄津新町駅より西へ徒歩3分)

<スケジュール>

- 15:00 総会受付開始
- 15:30~16:00 総会議事
- 16:00~17:00 懇話会「ジャンヴィエ総領事を囲んで」
(総領事あいさつのあと、参加者との自由な懇談)
- 17:15~18:45 「パリ祭」レセプション (要参加費)

なお会員の方にはこの会報をもって総会の開催通知に代えさせていただきます。同封の返信はがきで7月14日までにかならず出欠をご回答ください。

「あれから1年」大震災と私の家族

(在フランス) マーシャレ・清水みどり

日本を襲った歴史的にも未曾有の大地震とともに日本にお住まいの人々の運命も大きく揺れ動かされた1年だったと思いますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

私にとっても2011年は激動の年でした。実は数年前からあいのり小学校入学を期に歯科医師として再び日本に帰るつもりで準備しておりました。そして2月18日にフランスを後にしました。帰国後すぐに就職活動を再開し、あいをりを日本の幼稚園に入れ、小学校入学の準備を始めた矢先の3月11日、あの例を見ない大地震が日本を襲い、続いて起こった福島原発の事故に、ジャンとその家族や友人からフランスへの再帰国を促す矢のような電話やメールが入りました。私自身は、主人のTELがあるまで、福島までは400kmもありますし帰国の意思はありませんでした。ただ時々起こる小さな地震とTVでの連日の報道に娘のあいのりが大変な不安を持ち、パパのいるフランスに帰りたがったこと、チェルノブイリを経験した主人の不安(チェルノブイリから2600kmも離れてるにもかかわらずフランス南西部では多くの甲状腺がん患者、奇形児、白血病の子どもたちが生む悲劇を経験しています)、このような時には家族の絆が大切であること、そして、日本人であればそこに根を張らざるを得ないのですが、娘に万が一のことがあったときにフランス人でもある彼女の将来を私の一存で奪ってはいけなさと考えて3月18日にフランスに帰りました。そしてその1週間後に私の家族もこちらにきました。帰国当時は原発は収束はしていないものの、今回のフランスへの帰国は過剰反応だったと後悔、自分自身の仕事、子供の小学校入学に関して多くの準備をし大変楽しみにしていただけに本当に落胆が大きかったです。

そして日本を後にしたことを頑張っていらっしゃる方々に対し恥ずかしく、遠く離れ何もできない自分を申し訳ないような忸怩たる気持ちで毎日ゆっくり眠れない日が続いていました。けれどもその気持ちを振り払うべく考えるうちに、チャリティー・バザーなどをして物質的な義援金と言う形で日本を応援できればと思いつきました。何のバックアップもなく大きな宣伝なしでどうすればより多くの義捐金を集められるかと考えたときに、毎年4月の初旬の日曜日になるとパリの南にあるソー公園というところに千人を超える日本人やフランス人がお花見に訪れるということを思い出しました。

そしてそこで4月10日に「SAKURAチャリテリーバザー」という催しを開催しました。急に行った企画で、ギリギリになっての県からの許可の取り消し、そして再許可が開催日の一週間を切る時に届き、そのため告示がギリギリとなり協力者が集まるかどうか、最後までハラハラしました。当日も場所として告知していた花園の桜がほとんど散ってしまったため急遽花園を変更し、181ヘクタールもある公園ですので移動も大変なものでした。しかし公園の管理の県の職員の方々が大変親切で移動や誘導を行って下さり、車両立ち入り禁止の公園内にバイク隊に誘導され車で公園内に入ると多くの散策を楽しむ人々が大行列のように道を開けてくれるという興味深い体験をさせて頂きました。結果8家族ほどの協力者とおりの多くの花見客の方々のおかげで4000ユーロ程(40万円ほど)の募金を集めることができ、日本大使館から赤十字に



ユーロディズニーランドにて

寄付させていただきました。先日3月8日は東日本大震災の復興を願う記念式典にフランスの日本大使館よりご招待があり参加してまいりました。

以下はそのドタバタの顛末のブログ兼ホームページです。ご笑読いただければ幸いです。

<http://sakuracharity.blog55.fc2.com/>

その後の私ですがこちらでメディカルアシスタントとして働いています。フランス帰国後チャリティーバザーが終わり2週間して急に決まった就職先です。それまで日本の危機のことばかりで頭が一杯で原発の情報ばかり集めては一喜一憂する日々を過ごしておりました。次の震災の義援集めの活動として歯医者として何かできないかフランスにある日本人会とかでブラッシング指導や歯科相談教室などをして義援金集めができないかと歯科メーカーの協力も取り付け、日本人会にも相談したところ「フランスで歯医者をしていない人にそういった活動で資金を集めてもらってトラブルが起きたら困る。」と断られ落ち込んでいました。

ボランティアどころか自分の将来もどうすればよいのか、でももう今は日本には帰りたくない。今回のわずかな日本での滞在中に起こった出来事で、家族と一緒にいることの大切さをしみじみ噛み締めたからです。

そこでフランスでの就職活動を始めました。色々当たりましたが、面接に落ち、今回もまあどうせ落ちるだろうしその日の面接の朝も行くだけで疲れるからキャンセルしようかなと考えていました。それなのに、面接一発ですぐに決まり早速その次の週から見習いに行くことになったのです。仕事内容は個人医院で、メディカル・アシスタント件日本人患者の通訳です。現在週3日のハーフタイムの仕事ですがあいのりと過ごす時間も取れて良かったです。

日本滞在中は皆様の中にジャンのステージを聴かれた方もあるかもしれません。現在こちらでは彼は子供のショーの仕事を企画し演奏していますが順調で一年中コンスタントにツアーをしています。とりわけ昨年の12月は一ヶ月の間に60回以上のステージをこなし休みなしの大変な毎日でした。けれども不況の風が吹く中、音楽家として何とかやっていけていることは本当に感謝です。そして他にも今フランスの大統領選に向けてポップミュージックを作りました。以下にそのプロモーション・ビデオをアップしたYou Tubeのアドレスを貼り付けておきます。大変傑作だと自負しておりますので、お楽しみ頂きますとともに多くの御知り合いの方に回覧して頂ければ幸いです。

[Votez pour moi.mov](http://www.youtube.com/watch?v=WjgE4w4PdtY)

<http://www.youtube.com/watch?v=WjgE4w4PdtY>

我が家の一粒種のあいのりは相変わらず元気で笑顔いっぱい。誰に似たのかとてもひょうきんな性格、日本では今年の4月からですがフランスの現地校では昨年の9月に2年生になりました。ダンスとピアノを習いお絵かきも大得意。日本語は普通に話せますが何とかバイリンガルに育ってほしいと読み書きも特訓中です。

日本を遠く離れていると、たくさんの放射能に汚染された日本の復興支援について何かできることはないかいつも思い巡らしています。日本政府が現在の深刻な汚染の状況を認め農海産物等の基準を厳しくし瓦礫の拡散などを行わずに日本国民を汚染から守ってほしいと切に願う毎日です。

それでは、フランスの地より皆様のご多幸と日本の将来をお祈りしております。

(筆者は津市出身の歯科医師で現在パリ近郊のパルマン在住、本会会員の清水道子さんの長女。夫・ジャンさんはヴァイオリニスト。)